

●人を指す言葉【標準①】

「」次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

①明治の日本の文法家たちが日本語で英語の一人称代名詞の「我」や、二人称の you に相当するものは「私」や「お前さん」だとした根拠は何かと言うと、これらの言葉はそれぞれ話し手および聞き手を指しているからだというものです。そして話し手を表す言葉は、このほかにも「俺、僕、拙者、手前、こちら」など次々に出てきますし、相手についても「貴様、あなた、お手前、そちら様」といった具合にいくらでも考え付きます。（Ⅰ）日本語の人称代名詞は数が多いということになったのです。

しかし、私は日本人が毎日の生活の中で実際にはどのような言葉を自分および相手に使っているのかを調べてみたことがあります。その結果は意外なものでした。人々は文法家たちが人称代名詞と呼んだ語彙はあまり使っていないのです。ことに親族の間で目上の人と話すときは、このいわゆる人称代名詞は使えないのです。その代わり「父、母、おじ、おば、兄、姉」といった親族名称が多用されます。

社会的な場面でも人々はできるだけ相手の職業名（お巡りさん、運転手さん）や「先生、課長、社長」といった相手の地位を示す言葉を適当に使い分けたり、②親族用語を擬似的に用いたりして、いわゆる人称代名詞をなるべく使わないで a すまそう としていることが分かったのです。学校や病院などでは相手が年少者の場合、大人は自分のことを「私」と言わず「先生、お医者さん」などと職業名で呼ぶことも普通でした。これは英語などのヨーロッパ語では、人が口を開けば人称代名詞が相手の目上目下を問わず、必ず出てくると b タイシヨウ 的です。

明治以来、日本の文法家が「私、あなた」などを人称代名詞とした根拠は、すでに述べたようにこれらの言葉が、話し手あるいは聞き手を指していることだけでした。しかし話し手が自分を指す言葉ということになると、親族用語の大半はその目的で家庭の内外で c 頻繁 に用いられますし、今言った「先生、お医者さん、運転手さん、お巡りさん」といった呼びかけ言葉も、相手を指すという働きをしている点では同じです。そこで日本人は日常生活の中で自分および相手を、どのような言葉で指したり呼んだりするのかということ全体として d ハア ク しようとすれば、いわゆる人称代名詞を問題にするだけでは十分でないどころか、e 肝心 な部分は抜けてしまうことになるのです。

（Ⅱ）日本語の自分や相手を指す言葉が、ヨーロッパ語の人称代名詞と同じものとして論じることができないもう一つの理由は、「私、あなた」のような語は、その全てが起源的には何か具体的な特定の意味を持った言葉であるか、あるいは場所や方向を示す語彙の転用であるという事実です。しかしヨーロッパ語の人称代名詞の方は、歴史をいくら遡っても決して具体的な意味を持った言葉に辿り着くことはなくて、どこまでいっても代名詞としての性格は不変です。

③このような重要な違いがあるのですから日本語の「私」や「あなた、彼」といった語彙はヨーロッパ語の人称代名詞と同列に扱うことには無理があるのです。

問1 二重傍線部 a～e の漢字は読みをひらがなで記し、カタカナは漢字に直せ。

問2 傍線部①「明治の日本の文法家たち」とあるが、「文法家たち」が日本語の「私」や「あなた」を「人称代名詞」とした根拠は何か。次の空欄に入る語句を本文中より一五字以内で抜き出せ。

「私」や「あなた」などの言葉は、（

）という根拠。

問3 空欄Ⅰ・Ⅱに入る最も適当な語句を、次のア～オからそれぞれ一つ選び、記号で答えよ。

ア しかし イ また ウ だから エ なぜなら オ では

問4 傍線部②「親族用語を擬似的に用いたりして」とあるが、この例にはどのようなものがあるか。次の空欄に入る語句を考えて答えよ。

親族ではない高齢の男性を（ ）と呼ぶ。

問5 傍線部③「重要な違い」とはどのような違いか。二点に分けて説明せよ。

問6 二か所の波線部に「いわゆる人称代名詞」とあるが、「いわゆる」には筆者のどのような考えが表れているか。本文中の語句を使って四五字以内で答えよ。

50

a

U

[illegible]

I

U

II

U

U

[illegible]

●人を指す言葉【標準①】

【解答】(50点満点)

問1 aⅡ済 bⅡ対照 cⅡひんぱん dⅡ把握 eⅡかんじん(各2点)

問2 話し手および聞き手を指している(二五字)(6点)

問3 IⅡウ IIⅡイ(各5点)

問4 (例) おじいさん(5点)

問5 ・(例) 日本人は、自分や相手を指す言葉として、いわゆる人称代名詞はあまり用いず、親族名称や職業名を使うことが多いこと。

・(例) 日本語の自分や相手を指す言葉の起源は、特定の意味を持った言葉や、場所や方向を示す語彙の転用であること。
(各6点)

問6 (例) 日本語の人を指す言葉は、ヨーロッパ語の人称代名詞と同列に扱うことはできないという考え。(四三字)(7点)

【解説】

問2…「……とした根拠は何かと言うと、これらの言葉はそれぞれ話し手および聞き手を指しているからだというものです」に着目する。問4…「親族用語を擬似的に用いる」とは、実際には親族ではない人に対して、「お父さん」「お姉さん」などのように呼びかけることである。問5…第五段落に「日本語の自分や相手を指す言葉が、ヨーロッパ語の人称代名詞と同じものとして論じることができる。問6…筆者の考えは、「日本語の自分や相手を指す言葉が、ヨーロッパ語の人称代名詞と同じものとして論じることができない」「日本語の〈私〉や〈あなた、彼〉といった語彙はヨーロッパ語の人称代名詞と同列に扱うことには無理がある」などに表れているので、これらの部分の表現を用いてまとめらる。

●人を指す言葉【標準②】

「」次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

普通の家で子供たちが父母、兄妹といった目上の者には親族用語で（お父さん、お姉さん）などと話しかけて（あなた）などと言わないのは、自分および相手が共にその成員である家という共通枠の中での、お互いの座標の確認をすることで対話関係を作り出しているからです。小中学校の先生が生徒に向かって自分のことを（先生）と言うことが多いのも、先生・生徒という一体感のある場の中での①相互の位置を確認しているからだと考えられます。ですから同じ教育の場でも、大学のように教員と学生との距離があまり近くないときは、教授たちは自分のことをまず（先生）とは自称しないものです。

しかし自分と相手を含む何らかの社会的な共通枠を見いだせないときは、次のような解決法があります。その一つは、相手ももし自分の親族だとしたら何に当たるかを考えて、それに相応しい用語を用いることです。地方でのテレビのインタビューなどを聞いていると、局の人は出会う相手のほとんど全てに親族用語で呼びかけています。もう一つは、あまりよく知らない相手を、普通は三人称と考えられている（彼、彼女）で呼ぶことです。「彼女、その服似合うね。」といった具合に使います。またある男子学生は、タクシーに乗ったとき運転手から「彼、生まれはどこ？」と言われて、すぐには自分に対する質問だとは分からなかったと報告しています。このような場合（あなた、君）などでは、何かむき出しできつい感じがするというので、間接性のある三人称にいわば逃げていると言えます。

そして考えてみると親族用語で相手を呼ぶことも②相手を三人称扱いにしていると言えますし、これまで人称代名詞として挙げられた語彙のほとんどが、ヨーロッパ語のそれとは違って、（僕）や（俺）、（貴様）や（君）などを除くと、相手のいる場所や方角を示す言葉の転用だということが明らかです。つまり日本語ではヨーロッパ語とは違って直接話の相手を言葉で指すことをa極力さけて、その人の社会的地位、家族における自分との関係、そしてその人のいる場所や方角をいうことで、間接的に相手だということを示すのです。相手との関係はむき出しの直接的なものより、やんわりとした間接性のあるもののほうがよいというこの感覚は、古い日本の作法で人と話をするとき相手の顔を真正面からb見据えることは無作法であり、また相手の目を直視しつづけることは避けるべきだとしていることにも窺えます。つまり日本人の平常の人間関係のあり方を少なくとも言葉としぐさの点から見れば、対立対決の欧米型とはほど遠い（I）ものと言えるでしょう。

このことが概して日本人は議論が下手だと評されることと無関係でない私は思うのです。相手をよく見て、どこが弱点でどこを突けば勝てるかという、相手を自分が望むように動かし追ひ込む戦術が弱いのです。これは当然で、相手がいながら、なるべく相手を見ないようにする文化的な癖が、対決の場面をなるべく避けようとし、相手がこちらの発言に対して少し③気色ばんだりするとcアワてて「そんなつもりで言ったのではないですよ。」などと相手をなだめようとする。そもそも対話の仕組みそのものが対立対決的でなく、同じ社会的な枠組みを共有する仲間としての相手にむしろ同意協調することをdゼンテイとしているためです。

また④日本語では対話や議論が対立的になりにくいもう一つの理由は、自称詞と対称詞が多くの場合話し手と相手の間の上下関係を構造的に取り込んでいるからだだと思います。父親と議論するような場合、相手を「お父さん」と呼ぶことは、そのことで自分を息子つまり相手の目下と自己規定してしまうわけですから、初めから立場が弱いわけです。あるアメリカの論文で、父親をどう呼ぶかの調査のeタイショウとなったある青年が、自分は父親と議論するときは、⑤絶対にFatherと呼びかけることはせず、「貫してyouを使うことにしている」と答えています。日本語では言語上これができないのです。

問1 二重傍線部aとeの漢字は読みをひらがなで記し、カタカナは漢字に直せ。

問2 傍線部①「相互の位置」と同じ意味で用いられている語句を、同じ段落の中から六字で抜き出せ。

問3 傍線部②「相手を三人称扱いにしている」とあるが、相手を三人称扱いにするのは、日本人のどのような感覚によるのか。「〜という感覚。」につながるように本文中より抜き出せ。

問4 空欄Iに入る語句として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア 冷静な イ さわやかな ウ おごそかな エ 柔らかな

問5 傍線部③「気色ばんだりする」とあるが、「気色ばむ」の意味として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア 怒って顔色を変える イ 気分が悪くなる ウ おおげさに悲しがる エ 冷たいそぶりをみせる

問6 傍線部④とあるが、「日本語では対話や議論が対立的になりにくい」ことの、これ以外の理由は何か。本文中の言葉を使って簡潔に答えよ。

問7 傍線部⑤「絶対にFatherと呼びかけることはせず、一貫してyouを使う」とあるが、その理由を簡潔に説明せよ。

●人を指す言葉【標準②】

【解答】〈50点満点〉

- 問1 a||きよくりよく b||みず c||慌 d||前提 e||対象〈各2点〉
問2 お互いの座標〈7点〉
問3 相手との関係はむき出しの直接的なものより、やんわりとした間接性のあるもののほうがよい(という感覚)〈7点〉
問4 エ〈5点〉
問5 ア〈5点〉
問6 (例) 日本語は、対話の仕組みそのものが対立対決的ではなく、同意協調することを前提としているため。〈8点〉
問7 (例) Fatherと呼びかけると、相手より目下だと自己規定することになり、立場が弱くなるから。〈8点〉

【解説】

問2…「お互いの座標の確認をする」「相互の位置を確認している」という似た表現に着目する。問3…同じ段落の後半に「…とこの感覚」とあることに着目し、その前の部分を抜き出す。問4…日本人の特徴にあてはまる語句が入る。直前の「対立対決の欧米型」とは相反する特徴なので、エ「柔らかな」が適当。問6…直前の段落から、一つ目の理由をとらえる。「…ためです」という理由を示す表現に着目する。問7…「自分を息子つまり相手の目下と自己規定してしまうわけですから、初めから立場が弱いわけです」に着目する。相手と対等の立場で議論するために、親に対しても「son」を用いるのである。